Case Study
支部ケース・スタディ
北関東支部

行政連携のこれまでとこれから(BtoG/Past and Future)

宇都宮ケーブルテレビ(株)

執行役員CATV技術部長
加門 宏文

宇都宮ケーブルテレビは、平成4(1992)年に宇都宮市でサービスを開始し、平成23(2011)年に芳賀町を、平成27(2015)年に真岡市を提供エリアとして拡大してきました。隣接する自治体とはいえ、人口規模は、それぞれ約52万人(約24万世帯)、約1.2万人(約5千世帯)、約8万人(約3.3万世帯)で、明らかに地域特性も異なります。また、各自治体に株式を保有していただき、いわゆる第三セクターの形式を取っています。そのため、自治体サイドの要望もあり、個別のコミチャンと議会中継を放送しています。

このような背景のもと、比較的コミュニケーションも密に取れており、結果的に行政連携も幅広く行っています。今回は、これまでの取り組みの一部実績とこれからの可能性をお話しできればと思います。

広報紙・市公式アプリ・地元新聞にコミチャン掲載

現在、各自治体が発行している広報紙、公式アプリ、住民に全戸配布している地元新聞に、コミチャンの番宣や番組表が行政情報として住民の目に留まるようになったことは感慨深いです。とりわけ、宇都宮市に於いては全世帯にエリア拡大しておらず、「ケーブルさんは全域じゃないからね」と言われるのが常でした。そんな時代からコミチャンが認知され、いまではカラーで番宣が出るようになりました。最も小さい芳賀町は、職員が出演し、できるだけ親しみやすくなるよう作り込んでいます。もちろんこれも開局時に打ち合わせて「小さい町だからできること」をやった方がイイだろうという目論見で始まっています。真岡市に至っては、毎週市長さん自らコミチャンに出演していただき、いろいろな取り組みを市民に直接話す番組を放送しています。

宇都宮市広報誌

芳賀町広報誌

真岡市公式アプリアイコン

真岡市公式アプリ

宇都宮市との連携

宇都宮市には公営事業として、昭和25(1950)年開設の「宇都宮競輪場」があり、平成4(1992)年の開局

まもなく放送を開始し、現在、生中継を全レース実施しています。議会中継よりも早く実施していますので、行政連携はここから始まりました。

また、宇都宮市の小中学校は約100校あり、校務系のデータは各学校から教育センターを経由し、インターネットに繋がっています。そのインターネットを提供するために、教育センターと弊社ヘッドエンドを専用線で繋ぎ閉域網を構成し、校務系データは全て弊社のバックボーンを抜けています。現在、令和6（2024）年以降に予定されている電子教科書の使用に伴い、通信回線の増強が急務であるとの認識で、GIGAスクールの学習系インターネット環境を改善するための協議を開始しています。

宇都宮競輪場

宇都宮市教育センター

さらに、地区市民センター・市民活動センター・地域コミュニティセンター等、約45カ所にインターネット回線と無線LAN端末を整備しています。最近は、庁内だけでなく各出先機関で住民が無料使用できるインターネット環境を整えることが普通で、ほぼすべての市有施設を、弊社のインターネット回線はもとより、Wi-Fi環境整備に向けたLAN配線業務の委託工事とセットで受注しています。この業務は平時に限らず災害時に利用することも想定しています。

現在は、さらに大規模施設である男子プロバスケットボールリーグ（B.LEAGUE）「宇都宮ブレックス」のホームアリーナになっている市体育館のWi-Fi環境整備に向けた業務委託を受注し鋭意システム構築中です。なお、この体育館には弊社の専用線を引き込み、市内の小中学生のバレーボールやバスケットボールの試合をコミチャンで生放送し好評を博しています。

ブレックスアリーナ宇都宮（市体育館）

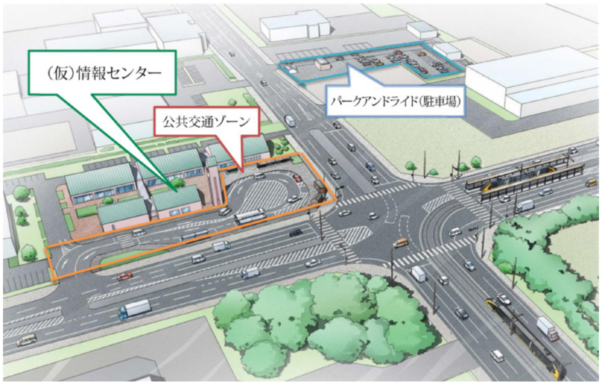
芳賀町との連携

宇都宮市北東部と隣接する芳賀町は、人口約1.2万（約5千世帯）の県内で最小クラスの自治体です。町とは、平成16（2004）年から連携してきました。CATV施設は、町主体で総務省『平成21年度補正 地域情報通信基盤整備推進交付金事業』で実施され、弊社が指定管理者として11年間管理運営をしてきました。その間にテレビ加入率は75%を超え、当初想定を上回る実績を残しました。その結果、令和4（2022）年4月に施設の有償譲渡を完了させ、現在は、弊社所有となり、町の後年設備負担もほぼなくなりました。町との連携は、サービス提供前に町職員と弊社社員で実施した約100回に及ぶ町民説明会から始まり、開局初年度に1,000世帯（20%）を超える加入が集まりました。

災害時の指定避難所を含む町有施設約50カ所にはテレビ配線を済ませており、小中学校や町民会館を含む主要施設にはインターネット回線とWi-Fi環境を整えてあります。万一何らかの災害が発生した場合は、町からの情報発信をコミチャンやインターネットを利用して周知することが可能な状態にしてあります。

また、今年の夏から運行予定の芳賀・宇都宮LRT「ライトライン」の町内トランジットセンター（停留所）に近接する「町工業団地管理センター」に、新たに簡易「町情報センター」を新設したいということで、管理運営を業務委託する方向で最終調整に入っています。GIGAスクールに関しましても、教育委員会より相談を受け、弊社インターネットひかり1G回線を小中学校に引き込んであります。もし、通信速度に問題があれば、すでに弊社で準備している通信設備「インターネットひかり10G回線」を複数本引き込んで対応しましょうと摺合せしてあります。

全くの新規路線としてライトレールが建設されるのは日本初

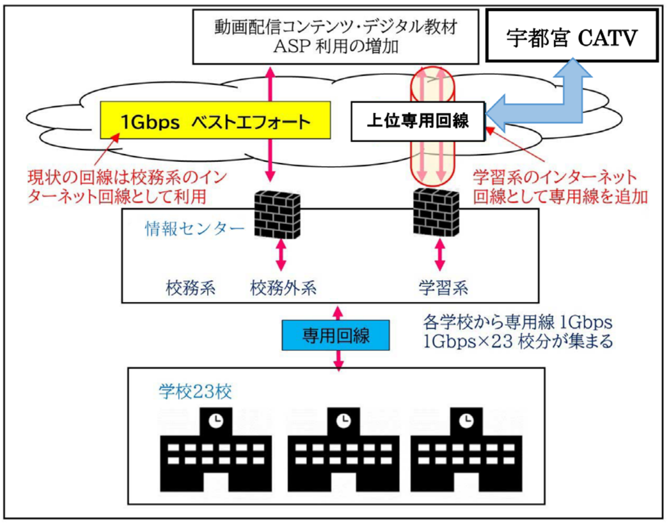


芳賀町トランジットセンター(停留所)付近

真岡市との連携

宇都宮市南東部と隣接する真岡市は、人口約8万(約3.3万世帯)で、県の南東部に位置する芳賀地域の中心都市です。市とは、平成27(2015)年9月から連携してきました。もともと地元にあったケーブルテレビ局の運営が芳しくなく、市が施設を引き受けて運用していましたが、行政ではノウハウがないということで、弊社が指定管理者として4年6カ月にわたり事業運営をさせていただきました。その間に、ほぼすべてのケーブルテレビ施設をリニューアルし、結果、指定管理者としての任期中に加入者を倍増させ収支を黒字に改善させました。令和2(2020)年4月からは、IRU契約に移行し、市のケーブルテレビ設備投資に係る後年負担はほぼゼロになりました。指定管理者としての実績が評価され、50年に一度の庁舎建設にあたっては、弊社の光ファイバを設計段階から配慮いただきました。これにより、庁舎内のインターネット回線は、ほぼ全ての弊社のサービスを利用していただいております。また、独居老人の見守りサービスとして『緊急通報装置貸与事業』を大手警備会社と連携し、約300世帯に提供しています。その他、『総合運動公園防犯カメラネットワーク事業』など通信と映像に関わる業務を数多く受注しています。

最大の連携は小中学校や消防署等の公共施設50カ所に及ぶ市専用線の敷設工事及び維持管理で、この一部がGIGAスクールに対応しており、小中学校全23校の学習系データを弊社で運用させていただいております。全小中学校と市情報センターを市所有の専用線で結び、市情報センターから26km先の宇都宮ヘッドエンドまでは、弊社の専用連絡幹線で接続、最終的に弊社のバックボーンを抜けていきます。大手通信事業者と競合でしたが、各学校からのトラフィックを確認しながら、必要に応じて柔軟にバックボーンの増減に対応することが評価されました。そのうえで、何よりも小回りの利く、丁寧で真摯な対応が最も信頼されたと感じています。

最後に、紙面の都合で一部実績にとどまりましたが、これまでの経験から、今後も行政からの業務委託は増加するだろうと感じています。放送や通信に関わること以外にも、例えばイベント広場や各種施設の管理運営を打診されていますし、ケーブルテレビ事業者との親和性の高い仕事だけではなく、純粋に新規事業に取り組む必要があるのではないかと感じています。

真岡市GIGAスクール構成図